

## 第六部 インマヌエルの書 ④

□第六部のアウトライン C)、D)、E) はイザヤ親子の名と関連する預言 (8 : 18)

- |  |               |   |
|--|---------------|---|
| A) インマヌエルのしるし (処女から生まれる)                             | 7 : 1~25      |   |
| B) インマヌエルについての4つの預言                                  | 8 : 1~9 : 7   |   |
| C) 神の伸ばされた御手<br>(神がアッシリアを用いて北イスラエルを裁く)               | 9 : 8~10 : 4  | ← 次男マヘル・シャラル・ハシュ・バズ<br>【分捕り物はすばやく、獲物はさっと】 |
| D) <b>アッシリアに対する裁き 10 : 5~34</b><br>(レムナントについての預言を含む) |               | ← 長男シェアル・ヤシュブ<br>【残りの者が帰って来る】             |
| E) インマヌエルによる統治                                       | 11 : 1~12 : 6 | ← 父親イザヤ 【主は救い】                            |

注意：この預言の中で、北イスラエルは、「エフライム」とも呼ばれる。

北イスラエル・・・エフライム族はじめ十部族、その首都はサマリア。王は有力者交替  
南ユダ・・・ユダ族とベニヤミン族、その首都はエルサレム。王はダビデの家系  
レムナント・・・英語で「残り」という意味。イスラエル民族の大多数は不信仰に陥って  
も、少数であるが真の信仰者が必ず残されている。彼らが真のイスラエル、霊的なイスラ  
エルである。

□D) アッシリアに対する裁き のアウトライン (イザヤ 10 : 5~34)

アブラハム契約の条項「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろ  
う。」(創 12 : 3) のとおりになる出来事。

そして、イザヤの長男の名「シェアル・ヤシュブ【残りの者が帰って来る】」と関連する預  
言が含まれる。

1. アッシリアが来る。しかし、そのアッシリアが減ぼされる (10 : 5~19)
2. レムナントについての預言 (10 : 20~23)
3. アッシリアに下る裁きに照らしてレムナントへの慰め (10 : 24~27)
4. アッシリアが来る。しかし、そのアッシリアが減ぼされる (10 : 28~34)

## D) アッシリアに対する裁き 10:5~34

## 1. アッシリアが来る。しかし、そのアッシリアが減ぼされる (10:5~19)

(1) アッシリアは、神の怒りのむちとして用いられる。アッシリアが北イスラエルを襲うのは、神がそうさせたからである。しかし、アッシリアは高ぶる (5~11節)

5~6節 「ああ、アッシリア、わたしの怒りのむち。わたしの憤りの杖は彼らの手にある。わたしは、これを 神を敬わない国に送り、わたしが激しく怒る民を襲えと、これに命じる。物を分捕らせ、獲物を奪わせ、道端の泥のように、これを踏みにじらせる。

- わたしは、これを〇〇に送り、〇〇を襲えと、これに命じる・・・神がアッシリアを〇〇に送り、〇〇を襲えと、アッシリアに命じる
- 〇〇とは、「神を敬わない国、わたしが激しく怒る民」=北イスラエル
- アッシリアは、北イスラエルを攻撃するように「主」からお告げがあったことを認識していた (Ⅱ列 18:25)

7~9節 しかし、彼自身はそうとは思わず、彼の心はそうは考えない。彼の心にあるのは滅ぼすこと、少なからぬ国々を絶ち滅ぼすことだ。というのは、彼がこう思っているからだ。『私の高官たちはみな王ではないか。カルノもカルケミシュのよう、ハマテもアルパデのようではないか。サマリアもダマスコのようではないか。

- しかし、彼自身はそうとは思わず、彼の心はそうは考えない・・・神の命令の対象は、「北イスラエル」であったが、アッシリアはその限度を超えて、「少なからぬ国々を絶ち滅ぼす」ことを考える。その中に南ユダも含むことになる。この預言は、735B.C.
- アッシリアがすでに攻略した町々は、740B.C.アルパデ、738B.C.カルノ
- この後、アッシリアが攻略する町々・・・732B.C.ダマスコ (アラムの首都)、722B.C.サマリア (北イスラエルの首都)、717B.C.カルケミシュ

10~11節 エルサレム、サマリアにまさる刻んだ像を持つ、偽りの神々の王国を私が手にしたように、私はサマリアとその偽りの神々にしたように、エルサレムとその多くの偶像にも同じようにしないだろうか』と。」

- アッシリアは、「主」とはどういうお方なのか、正確な知識を持たない。北イスラエルを攻撃する中で「主」も偶像の神々の一つと誤解することになり、主を侮ってエルサレムも攻撃してくるという預言。

## (2) 高ぶって度を越えたアッシリアが、処罰される (12～15節)

12～14節 主はシオンの山、エルサレムで、ご自分のすべてのわざを成し遂げるとき、アッシリアの王の思い上がった心の果実、その高ぶる目の輝きを罰せられる。それは彼がこう言ったからである。「私は自分の手の力でやった。私の知恵でやった。私は賢いからだ。私が諸国の民の境を取り払い、彼らの蓄えを奪い、全能者のように住民をおとしめた。私の手は、諸国の民の財宝を巢のようにつかみ、私は、見捨てられた卵を集めるのように、地のすべてのものを集めたが、翼をはためかす者も、口を大きく開ける者も、鳴く者もいなかった。」

- 巢（を）つかみ、見捨てられた卵を集める・・・親鳥がいないすきを狙って、容易に巢の中の卵を奪うこと。
- 翼をはためかす、口を大きく開ける、鳴く・・・親鳥による反撃をさす。親鳥がいれば、そのようにして抵抗し、簡単には卵を奪うことはさせない。
- アッシリアが周辺諸国から、これといった抵抗を受けることもなく、難なく支配することができるのは、本当は神によってそのようにされるから。しかし、アッシリアは、自分が強いから、賢いたから、と高ぶる。

15節 斧は、それを使って切る人に向かって高ぶることができるだろうか。のこぎりは、それをひく人に向かっておごることができるだろうか。それは、むちが、それを振り上げる人を動かし、杖が、木ではない人間を持ち上げるようなものではないか。

- アッシリアは、神の手の中にある道具でしかない。斧、のこぎり、むち、杖として神に用いられたにすぎないのに、神に向かっておごり高ぶる。

## (3) アッシリアの滅亡 (16～19節)

16～17節 それゆえ、万軍の主、主はその最も肥え太った者たちをやつれさせ、その栄光のもとで、炎が燃え上がる。イスラエルの光は火となり、その聖なる方は炎となる。燃え上がって、そのおどろと茨を一日のうちになめ尽くす。

- その最も肥え太った者・・・アッシリアの有力者たち。ここでは、アッシリア軍の将軍たち
- やつれさせる・・・病気によって衰弱させる。肺病などの消耗性疾病
- **その栄光**のもとで、炎が燃え上がる・・・**アッシリア軍**の下で炎が一気に燃え上がる → 全軍の兵士たちが一斉に高熱を發する病気に倒れる
- そのおどろと茨・・・アッシリア軍の将校たちと兵士たち
- 一日のうちになめ尽くす・・・一日のうちに全滅させる
- 預言の成就・・・イザヤ 37:36～38、II列 19:35

18～19 節 主はその美しい林も果樹園も、また、たましいも、からだも滅ぼし尽くし、それは病人が痩せ衰えるときのようにになる。その林の木の残りは数えるほどになり、子どもでもそれを書き留められる。

- その美しい林も果樹園も・・・直訳すると「その林の栄光も果樹園の（栄光）も」。アッシリアの栄光は軍、林は軍勢を描写した比喻、果樹園は兵糧も豊かであることを指す
- たましいも、からだも滅ぼし尽くし・・・あつというまに蔓延した肺病により、屈強な兵士たちですら体力消耗して身も心も折れた状態になる
- その林の木の残り・・・生き残ってアッシリアに帰還できた者たち
- 数えるほどになり、子どもでもそれを書き留められる・・・ヘブル語のアルファベットの中で最も簡単で小さなものは十番目の「ヨッド」、ヨッドはどんな小さな子でも書ける → 生存者の数は10人程度と推定される

## 2. レムナントについての預言（10：20～23）・・・大患難期のときに成就する預言

20～21 節 その日になると、イスラエルの残りの者、ヤコブの家の逃れの者は、もう二度と自分を打つ者に頼らず、イスラエルの聖なる方、主に真実をもって頼る。残りの者、ヤコブの残りの者は、力ある神に立ち返る。

- その日・・・大患難期7年間、とくにイスラエルの民族的救いが成就する最後の3日間。イスラエルは反キリストから逃れてボツラに避難している。
- イスラエルの残りの者、ヤコブの家の逃れの者・・・大患難期の最後の3日間のために生き残っているイスラエルの人々。ボツラに避難している人々と全世界に散っている人々と合わせて、イスラエル民族の数は、大患難期スタート時点からは3分の1にまで減少している
- 自分を打つ者・・・イスラエルを打つ者、すなわち「反キリスト」。大患難期は、イスラエルと反キリストとの条約締結によって始まる。大患難期スタート時点では、イスラエルの指導者層は反キリストに頼り、自国の安全を確保しようとする。しかし、大患難期の中間時点で、反キリストは全世界を支配する独裁者となり、イスラエルとの条約を破棄して、態度を翻し、イスラエルを打つ者となる。
- この預言のときには、アハズ王はアッシリアを頼ろうとしている。そのアッシリアが北イスラエルだけでなく南ユダをも打つ者となることと重なる。

22～23 節 たとえ、あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。壊滅は定められ、義があふれようとしている。すでに定められた全滅を、万軍の神、主は、全地のただ中で起こそうとしておられる。

- すでに定められた全滅・・・反キリスト軍の全滅

## 3. アッシリアに下る裁きに照らしてレムナントへの慰め (10:24~27)

24~27節 それゆえ、万軍の神、主はこう言われる。「シオンに住むわたしの民よ、アッシリアを恐れるな。彼がむちであなたを打ち、エジプトがしたように杖をあなたに振り上げても。もう少しでわたしの憤りは終わり、わたしの怒りは彼らを滅ぼしてしまうから。オレブの岩でミディアンを打ったのように、万軍の主が彼にむちを振り上げる。杖を海にかざして、エジプトにしたようにそれを上げる。その日になると、彼の重荷はあなたの肩から、彼のくびきはあなたの首から除かれる。くびきは脂肪のゆえに外される。

- オレブの岩でミディアンを打った・・・士師記 7:25
- 杖を海にかざして、エジプトにした・・・出 14:16, 21
- くびきは脂肪のゆえに外される・・・くびきは肥えた (首) から外される。首はエルサレム (イザヤ 8:8)、痩せていないので陥落せずに持ちこたえる。

## 4. アッシリアが来る。しかし、そのアッシリアが滅ぼされる (10:28~34)

## (1) アッシリアの侵攻 (28~32節)

28~32節 彼はアヤテに付き、ミグロンを過ぎ、ミクマスに荷を置く。彼らは峠を過ぎ、ゲバで野営する。ラマはおののき、サウルのギブアは逃げる。娘ガリムよ、甲高く叫べ。よく聞け、ライシャよ。哀れなアナトテ。マデメナは逃げ去り、ゲビムの住民は避難する。その日のうちに彼はノブで立ちとどまり、娘シオンの山、エルサレムの丘に向かって手を振り上げる。

- アヤテはエルサレムから 30 マイル、以下、徐々に近づいて、マデメナは 1 マイル、ゲビムは半マイル。ノブは、エルサレムに近い。

## (2) アッシリアの林 (軍勢) が切り倒されるという預言 (33~34節)

33~34節 見よ、万軍の主、主が恐ろしい勢いで枝を切り払われる。丈の高いものは切り倒され、そびえたものは低くなる。

主は林の茂みを鉄の斧で切り倒し、レバノンは力強い方によって倒される。

- 林・・・エルサレムを包囲するアッシリア軍は、エルサレムから眺めるとまるで林のように見える。「レバノン」は地名であるが、杉の産地として有名、ここでは林のように見えるアッシリア軍を指す。
- 預言の成就：イザヤ 37:36、「主の使い」=第2位格の神